

様式 2

## 平成 31 年度 学術振興基金助成による成果報告書

令和元年 1 1 月 1 1 日

学 長 殿

所属部局・職名 共生システム理工学類・教授

申 請 者 名 大 山 大

助成事業の区分	いずれかにチェックしてください 研究協力に関する事業 ( <input checked="" type="checkbox"/> 学会参加) 学術振興に関する事業 ( <input type="checkbox"/> 学生 <input type="checkbox"/> 事務職員)
事業名	第 7 回アジア錯体化学会議 (7th ACCC) への参加
事業実施期間	令和元年 1 0 月 1 4 日～ 令和元年 1 0 月 1 9 日
成果の概要	<p>マレーシアのクアラルンプールで開催された第 7 回アジア錯体化学会議 (7th ACCC) で研究成果を発表した。発表は当研究室の大学院生 2 名が行った (いずれもポスター)。</p> <p><b>Structure-Property Relationships Based on Synergistic Effects of Supporting Ligand and Coordination Geometry in Ruthenium Complexes Containing Asymmetric Polypyridines</b> (非対称性ポリピリジンを含むルテニウム錯体における支持配位子および配位幾何の相乗効果に基づく構造・特性の相関) (発表者: 赤塚こうみ, 高瀬つぎ子, 大山 大)</p> <p><b>New Synthetic Strategies for Construction of Selective Metal-and/or Organic-Hydride Units on Ru Complex without H<sub>2</sub> Gas</b> (水素ガスを使用しないルテニウム錯体上での選択的金属および有機ヒドリド部位の構築のための新規合成戦略) (発表者: 伊藤敬哉, 鶴川成美, 高瀬つぎ子, 大山 大)</p> <p>本学会には主に錯体化学を専門とした日本を含むアジア圏の研究者が参加しており, 国内外問わず錯体化学分野について新たな知見を得ることができた。さらに, 多くの参加者と意見交換することで今後の研究動向を把握でき, 非常に有意義な学会であった。</p>